

東京バッハ合唱団 特別演奏会 2024

バッハと仲間の音楽会

J. S. Bach and Friends

●キラキラ星変奏曲 Version 2.0

主題と1+40の変奏で歌い綴る
イエス・キリストの足跡

“初演”

作詞作曲：松尾茂春（東京バッハ合唱団員）

●ヴァイオリン、フルート、オーボエのための協奏曲 BWV 1064

●カンタータ第6番《とどまれ我らと 夕闇せまり》BWV 6

バッハ・カンタータ日本語演奏：大村恵美子訳詞

ソプラノ 藤原優花 アルト 中島麻紀子 テノール 野中裕太 バス 及川泰生

管弦楽 ARS (コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン)

オルガン 田尻明葉 合唱 東京バッハ合唱団 指揮 大村恵美子/松尾茂春(キラキラ星変奏曲)

① 2024年 6月8日 [土]

開演 14:00 / 開場 13:30

日本キリスト教団 荻窪教会

JR 中央線/東京メトロ丸の内線「荻窪駅」南口から約8分

② 6月15日 [土]

開演 14:00 / 開場 13:30

日本キリスト教団 三崎町教会

JR 総武線「水道橋駅」東口から、右方向へ約3分

—入場無料— ①②ともプログラムは共通

お申込み：会場準備の都合上、メールまたは電話にて下記へのご予約をお願いします
必須：1)会場名(番号)、2)お名前、3)人数、4)住所、5)ご連絡先(メール/電話など)

主催：東京バッハ合唱団 協力：日本キリスト教団 荻窪教会, 同 三崎町教会

メール office@bachchor-tokyo.jp 電話 03-3290-5731 http://bachchor-tokyo.jp/



東京バッハ合唱団 特別演奏会 2024

「バッハと仲間の音楽会 J. S. Bach and Friends」

都内の2つの教会をお借りして、表題のコンサートをお届けします。プログラムの1曲目《キラキラ星変奏曲》では、おなじみのフランス民謡を主題に、つぎからつぎと繰り返す変奏によってキリストの足跡をたどります。バッハの技法にも迫ろうとする大作(!)の初演。作者はわれわれ東京バッハ合唱団のベテラン団員、「仲間」の一人です。

今回は、思いっきり若手の声楽家に協演をお願いしました。将来の「バッハ日本語演奏」を担っていただきたいという願いからです。バッハ専門合唱団の草分けでもある当合唱団は、母語で歌い聴くことによりバッハの音楽と精神により親しく接し、深い感動に至ることができるという主宰者の信念に導かれて、創立以来60余年、日本語訳詞での演奏をつづけています。今日の若い音楽仲間が、われわれのこの理念を体現してご活躍くださることを、ともに期待しましょう。

管弦楽団 ARS (コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン) の皆さんとの協演は、コロナ禍をともに乗り越えながら、もう5年目に入ります。プロフィール欄にあるとおり「愛好家」の集まりであり、われわれ合唱団の組織の在り方と軌を一にしています。合唱団とオーケストラ、真の意味での、理想的な「コレギウム(仲間)」の形成を、お聴きの皆さんにも感じていただけるはずですよ。

何よりも、ここにお集りくださる音楽愛好家の皆さん、とくに熱い友情で長年にわたり声援をお送りくださるバッハファンのお一人お一人、たいせつなお仲間です。終曲のカンタータ《とどまれ我らと 夕闇せまり》は、バッハを代表する名曲中の名曲。エマオ途上にある傷心の弟子に語り掛けているのは、なんと、復活のキリストだったのです! 「バッハと仲間の音楽会」、お楽しみください。

演奏者プロフィール

■藤原 優花 (ふじわら・ゆうか)、ソプラノ



© Ayane Shindo

岩手県出身。岩手大学教育学部を卒業後、東京藝術大学声楽科を経て現在同大学院声楽専攻修士3年次に在学中。東京国際声楽コンクール大学生の部第3位。東京国際芸術協会新人演奏会にて優秀新人賞を受賞。市川市新人演奏家コンクールにて優秀賞を、日本クラシック音楽コンクールにて第2位(最高位)を受賞。モーツァルト『レクイエム』やバッハのカンタータ等のソリストを務める。

■中島 麻紀子 (なかしま・まきこ)、アルト/メゾソプラノ



東京音楽大学卒業。声楽を宮原成子、志村年子、嵯峨おさむの各氏に師事、春の声声楽コンクールプロフェッショナル部門ほか入賞・入選。オペラでは「魔笛」侍女2役、「エフゲニー・オネーギン」フィリビエヴァ役、「ヘンゼルとグレーテル」母親役、オペレッタ「こうもり」オルロフスキー役他に出演。バロック音楽や宗教曲のコンサートにもソリストとして数多く出演。東京室内歌劇場会員。

■野中 裕太 (のなか・ゆうた)、テノール



山梨県南アルプス市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。卒業時に同声会賞および佐々木成子賞受賞。同声会新人演奏会に出演。現在同大学院音楽研究科声楽専攻修士3年次に在籍。2023年度「東京藝術大学奏楽堂モーニング・コンサート」に成績優秀者として出演、ソリストとして角田鋼亮氏指揮・藝大フィルハーモニア管弦楽団とB.ブリテン作曲「Les illuminations Op.18」を共演。

■及川 泰生 (おいかわ・たいせい)、バス



岩手県出身。岩手大学教育学部学校教育教員養成課程を卒業後、東京藝術大学音楽学部声楽科を経て、現在、同大学院音楽研究科声楽専攻2年次に在学中。第100回二期会オペラ研修所コンサート、第73回藝大メサイアにバスソリストとして出演。声楽を小原一穂、佐々木正利、米谷毅彦、萩原潤の各氏に師事。

■田尻 明葉 (たじり・あきは)、オルガン



東京音楽大学付属高校、東京音楽大学ピアノ科卒業後、桐朋学園大学カレッジディプロマコース、コントラバス科を卒業。モスクワ音楽院常葉学園オーディション合格。オルガンとコントラバスで数多くの実践を重ねる。当合唱団では第117回定期演奏会(2018年)にオルガニストとして出演以来、地方公演も含め多くの公演に参加している。当合唱団練習伴奏者。

■ARS (コレギウム・アルモニア・スペリオール・ジャパン)、管弦楽

Collegium Armonia Superiore Japan (略称ARS) 2018年に誕生した演奏家のための研鑽団体(Collegium)。熱心な演奏愛好家と音楽専攻を目指す学生を対象に、緊密なアンサンブルによる“よりよき響き(Armonia Superiore)”を徹底的に追及することを目的とし、魅力的な指導者を招聘し、机上講習はじめマスタークラスや演奏会実践形式での研鑽を実施している。2019年に当合唱団の小布施・野尻湖コンサートツアーに有志が同行して以来、活動理念を共有して協演をつづけている。

■大村 恵美子 (おおむら・えみこ)、訳詞・指揮

東京バッハ合唱団主宰者。東京芸術大学楽理科・同作曲科卒業後、フランス・ストラスブール音楽院およびストラスブール大学で作曲・指揮・音楽学を学ぶ。在学中よりバッハのカンタータ演奏を志し、1962年、留学を終えると同時に東京バッハ合唱団を創立、現在までに、バッハの宗教合唱作品のほぼ全曲の上演出演訳詞を完成。その中の多くを自らの指揮で上演するなど、日本でのバッハ合唱曲普及に貢献している。「バッハ・カンタータ日本語版楽譜全集」刊行中。

■松尾 茂春 (まつお・しげはる)、作詞・作曲・指揮

幼少より名曲に傾倒、作曲にも親しむ。東京バッハ合唱団団員として、長年、主宰者の薫陶のもとバッハを歌い、多くのバッハ作品に学ぶ。現在は、多声部間の構造を重視したアレンジを考案しつつ教会聖歌隊を指揮し、また、作曲を、特殊な言語と規則体系に沿った感性をとまなうプログラミングの一種として位置づけて、活動をつづけている。情報処理学会会員。

東京バッハ合唱団

■東京バッハ合唱団 (BACH-CHOR, TOKYO)

教会カンタータを中心に、J.S.バッハの合唱作品のみを演奏し研究する団体として、1962年大村恵美子の呼びかけで組織された。初期は主に小林道夫氏、その後は大村恵美子の指揮により演奏、定期演奏会や各地の教会等での特別公演など300回以上におよぶ。日本語(大村恵美子訳詞)での上演が原則。1983年より5度にわたりドイツ各地での公演を果たす。2022年に創立60周年を迎えた。

—— 一緒に歌いませんか。新規団員募集 ——

バッハの合唱曲を日本語で歌っています。資格や経験は問いません。いちど、練習をのぞいてみてください。

[練習日/会場] 毎週土曜日、15:30-17:30、荻窪教会 (JR/地下鉄「荻窪」駅南口から徒歩8分。〒167-0051 杉並区荻窪4-2-10)

[会費] 月額6000円(児童・学生無料、30歳未満半額)。詳細HP